

## 1 国産濃厚飼料（子実用トウモロコシ）の生産・調製・給与技術の開発

## (1) 試験研究の目的・背景

- ・ 輸入飼料価格高騰により、飼料用米に加え、国産の子実用トウモロコシが求められている
- ・ 子実用トウモロコシの生産・調製・給与技術の開発により、持続可能な畜産への転換を図る

## (2) これまでの成果

- ・ 飼料用トウモロコシを子実用として完熟期まで登熟させ収穫したところ、品種により、国が目標とする収量（800kg/10a）を達成



図1 子実用トウモロコシ（完熟期）



図2 汎用コンバインによる収穫

表1 子実用トウモロコシの収量(2022)

品種名	播種日	収穫日	日数 (日)	現物	
				収量(kg/10a)	水分率(%)
パイオニア108日	4/4	8/19	137	643.1	25.6
スノーデント110				802.7	28.0
			平均	722.9	

- ・ 保存方法には乾燥保存とサイレージ保存があり、給与にあたっては、粉碎調製、または圧ベン調製が必要
- ・ 保存や調製方法によって粒の大きさや性状が異なるため、それぞれの特性に応じた給与方法が必要



図3 乾燥保存



図4 サイレージ保存



図5 粉碎調製



図6 圧ベン調製

表2 コスト比較（畜試概算）

	10 aあたり (円, kg)				生産費② (円/kg)
	栽培・収穫(円)	保存(円)	調製(円)	生産費①(円)	
乾燥保存	42,457	32,531	2,693	77,680	107.5
サイレージ保存		578		45,728	63.3
			輸入丸粒トウモロコシ価格		66.9

## (3) 今後の取組と成果見込み

- ・ 保存方法や調製方法の違いが家畜への給与に及ぼす影響を調査
- ・ 低コスト生産に向けた栽培管理や収量・品質向上及び利用方法の検討



輸入飼料に頼らない、低コスト・高品質な国産飼料の安定確保